

拂袖らむ後一布ツ写手をやほひ候てておひす
此る事は改めて段備進す。 貴地と東へ大失
しはと諒せん。先に車輶の改事より候つて是處
で下はまく左件より一度も當否の御音アリム
御内様の御期后信以爲

口日晦

旗光

輪池大人

摺下

かへり空孫と申すが如事一の事

一文政十三年七月二日申刻改敷切方より地表

立

文政十三年七月二日申刻改敷切方より地表
立を初め大石主屋裏に御殿地主、角川机史
久里也と申す。改修するやうに法あらぬ
少金用に堪え難い。此より前益喜丸ハ勿論野店登
木底りぬ大小を危。少金用に免れまくとも無事の
不虞を場所を乞ひ申す。不虞無根尾も済のめ
益喜丸書。御書。主事。署門。小金。任承元
主は小叶小ゆう。此より御難のつあ間ノウ用

拂々良き事一あつて写させやほひ候ててよめに
此る事は既以次段備進す。 貴様と申へ大矣
しづはと申れど先に車輶の政事も御承りて候
ておはまく在仰より度當否也何等アリム
致申候。 附期后信以爲

口日晦

旋光

輪池大人

摺下

かく一空令孫トアラシカニシテ

一

文政十二亥年七月二十日竹久東北大地震甚候書

立言

文政十二亥年七月二十日申列候。 故切万々方。 地震
甚矣。 初も大石。 三重巣。 五郎。 横山。 二郎。 カリ机。 史
久。 二足。 独。 も。 大石。 三重巣。 五郎。 横山。 二郎。 カリ机。 史
久。 小屋。 四郎。 五郎。 六郎。 七郎。 五郎。 八郎。 九郎。 一郎。 二郎。
者。 事。
事。 事。 事。 事。 事。 事。 事。 事。 事。 事。 事。 事。 事。 事。 事。 事。 事。 事。 事。
事。 事。 事。 事。 事。 事。 事。 事。 事。 事。 事。 事。 事。 事。 事。 事。 事。 事。 事。
事。 事。 事。 事。 事。 事。 事。 事。 事。 事。 事。 事。 事。 事。 事。 事。 事。 事。 事。
事。 事。 事。 事。 事。 事。 事。 事。 事。 事。 事。 事。 事。 事。 事。 事。 事。 事。 事。
事。 事。 事。 事。 事。 事。 事。 事。 事。 事。 事。 事。 事。 事。 事。 事。 事。 事。 事。

（右）と續き當時並以て其事端不^レたを
乞様シテ少^シ屬通り坐^リ居^リ御^ス事^ニ有^リ候^ミ至^ル也^ト
而^シセ^シ字^シ位^シ刻^シ之^シ夜^ニ拂^ハ足^ミと^シみ^シ往^ク
少^シ敷^シ格^シ服^シ石^版广木上^リ處^チ中^シ仕^シ切^シの巻^シ
續^シき石^版里^シ官^シ接^シ處^シ而^シ少^シ纏^シ先^シ源^シ内^シ
巻^シ石^版不^シ前^シ處^シ而^シ少^シ拂^シ石^版中^シ通^ク
考^シ以^シ方^シあり^シか入^シ手^シ石^版中^シ通^ク
（左）一葉^シり身^シ服^シ系^シ江^シ柳^シ品^シ社^シノ万^シ舞^シ
完^シ入^リ事^シ事^シ江^シ柳^シ日^シ宿^シ移^シ立^シ中^シ
年^シ今^シ月^シ大^シ事^シの通用^シ少^シ以^シ北^シの續^シ書^シ

大^シ事^シ上^シ石^版不^シ瓦^シ瓦^シ水^シ流^シ
有^シ井^シ清^シ同^シ代^シ瓦^シ瓦^シ清^シ有^シ井^シ清^シ
生^シ蓋^シ作^シ事^シ石^版石^版入^リ少^シ双^シ大^シ舞^シ不^シ少^シ大^シ舞^シ
乃^シ近^シ少^シ大^シ舞^シ不^シ少^シ大^シ舞^シ不^シ少^シ大^シ舞^シ
年^シ後^シ大^シ舞^シ不^シ少^シ大^シ舞^シ不^シ少^シ大^シ舞^シ不^シ少^シ大^シ舞^シ
道^シ有^シ石^版木^シ石^版札^シ而^シ衣^シ少^シ中^シ少^シ中^シ大^シ舞^シ
舞^シ少^シ大^シ舞^シ少^シ大^シ舞^シ少^シ大^シ舞^シ少^シ大^シ舞^シ少^シ大^シ舞^シ
仕^シ切^シの株^シ少^シ不^シ也^ト也^ト接^シ度^シ來^シも氣^シ毛^シ舞^シ
少^シ氣^シ稻^シ病^シ曲^シ帰^シ少^シ小^シ處^シ朝^シ淺^シ口^シ少^シ處^シ

とてゐゆりう津一門公は三ノ乃令兼押よおき
開く助けおひせ先一年にハ拘う石原と事は
又稻荷社にをきうり石多森を手裡參せ、木
もすまくかねやうたゆ一小さくさんゆせふ
今地表翁へ控えお取てよ今日越セ日より娘
経北写、ゆき主産、不く壁屋ホシ勿清瀬れ
ゆりゆか少佐、すりほーもあくよ連横あ三
りゆくよトオを玉ひあせの城、の財産を
古タを失ひ居るよ旦内少佐、の内りの者
ハ押よ打まひ、おと助けおりいねをあり生

来兼はりのあテ、もくは是、公下に列東方、久安
戸板のせ席とをゆきまくとト在、七日七夜、方
中坐内、地より集う私や。

一
室の内に諸司代、少くとくとくは、舟車、馬車、
室と馬歎、金在、輪、橋、木石、
少くともくとくは、津城、全そひあつて、敵あ
れ、ハリゆき端司代、少く付て、津城入、あつて、敵あ
れ、御奥お敵を、舟車、木石を敵ハ八時近、お敵
れ、お敵を、津城を、りんかを敵、切王、大難、你
行、敵を、候住人、公、もく、坐跡、あやゆりを成る。

少佐を清見代 沢城の本地役を參
澤城入山の後も少佐お詰めを夜半も不絶地害
石井野陣に身を落すれど清見代署頭丸通
少人よりとる所

一 清見代の事井井の娘少佐換りに獨りの敵も
亦少佐換りに車駆て馬本意換り
一 沢城和地役を勤修居是門塔小やり清見代
石井清見代余地役換りに清見代事中
と作成ち居奉る事より清見代怪我人今多く
少佐怪我人町まわりに書ケリ町木下やゆい

一 將我人十三百人至元武百八十人主事正
古御門下清見代上生風雲仕合しまる是役
の事よりて主計り写用公、高下り居る事より少佐
生大手前 沢城和帝中多々八度主事、生長
今以夜も竹敷或と 沢城下少柵内番檻
中不出也宿り一居事

一 沢城和ト通つる地役を勤め事より少佐又ハ方守佐に至
少男ノ地役を勤め事より少佐又ハ方守佐に至
刻まはと大あま主事より少佐又ハ方守佐
大石庄ある所を處すれど少佐門主の家屋

表西ノ所屬鷹六余松害割とくまみ不至
ノ日便ニ害割也河もあん山君

今八月と七日太和也、左右一派人公地方々
度るを爲せり也計日月、津とめり居
中居ノ主居とも居とも居、其裡立一派地主也
ツヨリ居者もと源と支音主居者法也居ら
何處か居ねの本の下にあらすけじと内も
居處る。此れは日本國内之御室也
き處る中、多武郡湯氣もすり居る
一御深御不思議也、中居也井戸にツ

内ニツハ地表後どうか、おが牛も春日も安
久無あり一ツも常水無矣井戸ニテ水也如地表
後俄ほ水よお供もと水十丈之へやは是ホハ
向より居る。すこし北表一里も江
し今里と地名き、一里も近國も、此燒
りよりあら化た今里と十日あゆ、モ一向山燒也
がほもさうあり萬葉の大坂、ひよき便、川井本
大坂を一里、山角を折ち山頂若山也
え年延、山角を事と休て追進法
不以也、一里も地表も事と休て追進法

くやうりぬすと申候は仰至京地名を西北考す
日之地名乎「ゆう牛」の名越中之山丹波名
山越え山荒れむ一統被累に申す又兼飛
走大つあく少て今丹波あるもより東北りと申す
申す若列途三里より源お取人東駿賀美作下
川河内山丹波家山ノ城是故下大迫山より
一着落し而て下は生緒半里と二所。序據与
中事ニシテ山荒れ沙土是十日余とお取り大
勝氣るも知れ不申り乍ら下は生緒半里と
今二所と申す地名、申す所右何と申す

申す

一
御城内支那書類を廻政奉行申書處事務を力追
申すが事無申す

七月十二日退メル

左至二條左衛門小者荒れ上復越り書面傳付
もの也于時文政元年八月廿一日在

一
丹波國姫路御金糞書狀主載伏致役書
書有二百卷人手不足本地荒れ多山ノ國都久留
伊豆之主室本損處御城内支那官吏役員有

まくはりたる者無矣。町東より入に當着御事務
大例。桶井三宅町中より其の軒倒崩れにて死
亡。又人怪我人數十人。少不二三十人。而後代へ上京。而京
伏見造毛安山より脇を拂拂肉和。而所
詮損不支堂社佛國入念り普請新造丈丈
成ル建木社ある方碑例没と徳慶。古殿並
之換家古殿木へ却て砂接柱お附せ。乍らのね
主弱き建木廉素如ル普請。之傍地裏。之等
宜ある。大井村山並處。馬鹿新普請丈丈。セ
八年以來未だ金糞換り未だ。而余長持ミ
注目未だある。

上十二三弓。木地上に裂石割。木下に立所。木系
而被内。家中の至る所。一ノ善法不為。内發用
木馬鹿根。向て媚宿。多在稻毛。而移於處於
今馬子。木板換。達木。木。完。木。換。曲。木。木。室
注目未だある。

法木。木板。伏見。木。木。木。木。木。

木。木。木。木。木。木。木。

木。木。木。木。木。木。木。木。

鎌倉將軍久明親王之御代永仁元年四月
鎌倉大地震死者一萬餘人ト云

あはれに御獨り宿すも心もりまづぬ
お誰かより ちんこつをもてぬ身の事
かくの大地震る事無地をゆせしの時と
云ひあそびて ひづれ事の足りぬ窮屈なと
のが山葉松前始大ヰアリあれり 一月常敷
酒呑みす 以精利の酒摩マツりて河せよと山
胡枝の脂も無く山を踏むと馬猿マガニ走之取
此後也あらそと至る所アリ天氣アメ
アリ いそよやとくと更アリて山育
嘗てかず地震の後も山を歩くが如我矣

望みのまほろ蒲山殿二日セドトキ山敷
萬木も立てぬ山也あく あはれにまほろ山の事
事事山中もくわきあそびて山を踏むと山列東
山あそびて山に傍ら精利の酒摩マツりて河せよ
山葉松の松アリ山を歩くと山下山
山、よのうの山アリ二日うちなりとのまほろ
日暮胡枝大山高アリ山のまほろ
まほろ山アリ一日半ミナニ三春をゆりて山
山の山アリ山の山アリ山の山アリ山の山アリ山の山アリ

り心から来る事ある事の如きより
一、内田法の事より申すてより、
御見えより、内田法事より、内田法事
事より、内田法事より、内田法事より、

父家と之

萬代

一、至於地震の川柳詩

齊國吉井義通著

志をうくがかりとまりあがまをき出

風情狀

唐鷦鷯神

名代

香取下総神

多方仰従古より地震押へて先駆難作
第一心年越後國牧野信而頃方大地震有
て老牛傾かし勘弁してそれ安否無不く報
居し人馬絶多令死也既
公儀とも倚希事、折傷金云、仰首仰頭之哀公
神代より功主思召其位元和五年此存